

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 企画文化局

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興

担当局/ 総務担当課名	企画文化局	企画課
連絡先	582-2153	

21年度計画

-2-(2)-

施策名 芸術・文化によるまちづくり

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	芸術・文化を担う市民やアーティスト・クリエイターが集まる環境の整備を進めるとともに、芸術・文化の持つ力を、地域経済、教育、福祉、コミュニケーション形成などに活かし、創造的なまちづくりを進めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	芸術・文化の振興

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	H21年度	計画	実績		年度	H22年度
文化振興計画の策定	年度	H21年度	計画	-	年度	H22年度	策定
			実績	検討会開催			
	現状値	策定なし	達成度	%	目標値	策定	
			計画		年度		
	年度	H21年度	計画		年度		
			実績		目標値		
現状値	策定なし	達成度	%	目標値			
		計画		年度			
年度	H21年度	計画		年度			
		実績		目標値			
現状値	策定なし	達成度	%	目標値			
		計画		年度			
年度	H21年度	計画		年度			
		実績		目標値			
現状値	策定なし	達成度	%	目標値			
		計画		年度			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	31,700 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
			うち一般財源	21,255 千円	42,975 千円		

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	(仮称)北九州市漫画ミュージアムについては、当初開設場所として予定していた第2チャチャタウンの事業着手が延期となったことから、急遽新たな開設場所を選定することとなったが、小倉駅北口の小倉興産21号館ビルへの入居が決定し、平成24年度の開設に向け準備を進めることとなりました。 黒崎副都心地区の「文化・交流拠点地区」整備事業については、市議会の議決を経てPF事業者が決定し、計画通り進捗しています。 (仮称)文化振興計画についても、H21年度中に検討会を4回開催し、H22年度中の策定に向け順調に作業が進んでいます。
		まずは、今後の本市の芸術・文化によるまちづくりを推進するための基本的な指針となる「(仮称)文化振興計画」をH22年度中に策定し、計画的かつ効果的な事業の推進を図っていきます。
今後の局施策の方向性		

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

施策名 芸術・文化によるまちづくり

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
(仮称)北九州市漫画ミュージアム開設準備			30,193 千円	30,000 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源			19,748 千円						
(仮称)文化振興計画策定事業			1,507 千円	4,200 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源			1,507 千円						
黒崎副都心「文化・交流拠点地区」整備事業				8,775 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	31,700 千円	42,975 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	21,255 千円		

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
A:大変良い状況にある
B:概ね良い状況にある
C:概ね良い状況とまでは言えない
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 A:事業の見直しを図ることが可能 I:休止・廃止を検討 U:現状のまま進めることが適当 E:終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	芸術・文化によるまちづくり

関連計画	
事業期間	平成19年度～
経費区分	重点経費

-2-(2)-

事業名	(仮称)北九州市漫画ミュージアム開設準備
-----	----------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市は、松本零士氏、畑中純氏、わたせせいぞう氏、北条司氏など著名な漫画家を数多く輩出している地域です。これらの作家・作品を地域の重要な資源として活用し、さまざまな漫画の魅力幅広い世代に伝える漫画文化の拠点施設「(仮称)北九州市漫画ミュージアム」を開設します。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	芸術・文化によるまちづくり	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	設置場所決定 プレイベント実施	基本・実施設計	設置工事	開館				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		開設準備					計画	-	年度	平成24年度
		開設のために、設置場所の決定、設置工事、展示作成等を行います。						実績	設置場所決定	内容
							達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]	事業費	30,193 千円		うち一般財源		19,748 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度) 30,000 千円		
		単年度計画								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、当初開設場所と予定していた第2チャチャタウンの事業着手延期の連絡が9月にあり、開設場所の検討を行ったところです。ビル所有者の「漫画ミュージアムを核として、ビル全体を漫画による統一コンセプトビルとして再生し、北九州市と日本の新たなシンボリック施設にする。」という提案を高く評価し、小倉興産21号館ビル(旧ラフォーレ原宿・小倉)に決定しました。あわせて市立美術館分館で実施した「高橋留美子展」の30日で約2万人の入場者を集めました。また、市に寄託された漫画資料について調査を行い、適正な管理に努めるとともに、メディアドームで開催された「アニアうたKITAKYUSHU2010」でも約4,000人の入場者に対し、PRを行うなど効果的な広報に努めました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	集客の見込める開設場所の選定や資料収集、PR事業の実施など漫画ミュージアムの開設に必要な事業を実施しました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	年度途中より学芸員を採用し、企画展実施の経験を積ませるなど、開館後を見越した事業運営を行っています。また、「高橋留美子展」では約2万人の入場者集めるなど高い効果を得ました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	クールジャパンといわれ、日本の漫画・アニメという文化のソフトパワーが注目されている現在、今後も本事業を積極的に実施して漫画文化の振興とまちの魅力づくり、賑わいづくりを図る必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体としては市が適切と考えています。地元漫画家など著作権者との関係においても、行政が主体であることが望ましいと考えています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は、施策に対する有効性が高く、重要な事業と考えています。今後も目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適切と考えています。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	芸術・文化によるまちづくり

関連計画	
事業期間	平成21年度～平成22年度
経費区分	重点経費

-2-(2)-

事業名	(仮称)文化振興計画策定事業
-----	----------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市の芸術・文化施策を今後、計画的に行っていくための方向性を示すもを目的に「(仮称)北九州市文化振興計画」を策定し、芸術・文化を活用したまちづくりを進めます。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	芸術・文化によるまちづくり		成果	文化振興計画の策定

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	計画検討会の実施	計画策定						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)							平成21年度	目標
		文化振興計画の策定					計画	-	年度	平成22年度
		市の基本構想・基本計画の分野別計画である、(仮称)北九州市文化振興計画を策定します。					実績	計画検討会の実施	内容	計画策定
							達成度	%	年度	
							計画		年度	
							実績		内容	
						達成度	%	年度		
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	1,507 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	1,507 千円	4,200 千円				
単年度計画	(斜線表示)							教育委員会でも一部事務を行っています。		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】		
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は、外部の有識者など11名の委員による検討会を4回実施しました。

【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本市の文化施策の方向性を示す基本的な計画のためです。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	計画の策定にあたり、職員が専門性を生かし素案等作成しており、委託等の経費の削減に取り組んでいます。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	基本構想・基本計画を策定後、すみやかに策定する必要があります。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	市が策定するものです。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ウ	平成22年の秋を目途に策定予定です。

事業評価票

平成 21 年度実施事業	新規	継続
---------------------	----	----

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月
--------	--------	------------

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	芸術・文化によるまちづくり

関連計画	北九州市中心市街地活性化基本計画
事業期間	平成21年度～平成39年度
経費区分	重点経費

-2-(2)-

事業名	黒崎副都心「文化・交流拠点地区」整備事業
------------	-----------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	文化・生涯学習・コミュニティ活動を通して人が交流する場や、快適に憩える都市空間を整備することにより、副都心に相応しい都市機能の充実と地域の回遊性の向上を図り、黒崎の活気と賑わいを再生させます。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	芸術・文化によるまちづくり		成果	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	PFI事業者の公募・選定 PFI事業契約の締結 事業用地の一部買戻し	基本設計・実施設計 建設工事	建設工事 関連備品の購入 事業用地の買戻し	建設工事 関連備品の購入 7月施設オープン	維持管理・運営				
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		「文化・交流拠点地区」の整備						計画	-	年度	平成24年度
		PFI事業による図書館、ホール、広場などの整備に向け、施設的设计などを進め、平成22年内に工事着手を図り、平成24年夏オープンを目指します。						実績	PFI事業者の公募等	内容	平成24年夏の供用開始
								達成度	%	年度	
	コスト							計画		年度	
								実績		内容	
							事業費	千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	千円	8,775 千円		
単年度計画	(この欄は、単年度計画の進捗状況を確認するための欄です。)										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年7月にPFI事業者の公募を行った結果、平成21年12月に学識経験者等で構成されるPFI事業者検討会の審査において、九電グループを優秀提案者として選定、市において、落札者として決定しました。その後、市議会の議決を経て、PFI事業契約を締結するなど、当初計画どおりの進捗でした。
-------------------	------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

【評価】	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	図書館、ホール、広場等を整備することにより、文化・生涯学習・コミュニティ活動を通して人が交流する場や、快適に憩える都市空間が実現するなど、施策に対する事業の有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	民間資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用したPFI事業(BTO方式)により事業を進めます。本事業については、従来の公共事業発注方式に比べ、「効率性(施設整備と維持管理運営の一体による使いやすく運営しやすい施設)」や「経済性(性能発注・一括発注による事業費の削減、事業期間内における財政負担の平準化など)」の面で効果が見込まれます。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本事業は、中心市街地活性化基本計画(平成20～24年度)の主要プロジェクトであり、計画期間内の平成24年夏のオープンを目指し、現工程のとおり、計画的で着実な取り組みを進めていく必要があります。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	図書館、広場・緑地については法令に基づき整備するため、市が実施します。また、ホールについては文化振興、地域住民の文化活動発表の場の確保の観点から、市が実施することが適当です。
【今後の方向性】	ウ	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。		本事業は施策に対する有効性が非常に高く、「多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供」、「芸術・文化によるまちづくり」、「人が交流する場や、快適に憩える都市空間の確保」を図っていく上で、重要な事業です。今度も目標の達成に向け着実な取り組みを進めていきます。